



福島潟シンポジウム × ねっとわーく福島潟 交流集会

オオヒシクイと福島潟



オオヒシクイの群

かつてオオヒシクイ日本最大の越冬地とうたわれていた福島潟。近年はその飛来数も低調でしたが、2022年1月には過去最大の飛来数を記録しました。オオヒシクイと福島潟にながら起こっているのでしょうか。30年来福島潟の自然に関わってきた講師と、福島潟でオオヒシクイ調査の現場に携わるメンバーがこれからの福島潟像を考えます。

第一部

基調講演

福島潟野鳥の会会員、新潟県野鳥愛護会会員 齋藤 敏郎 氏
「鳥類調査と自然環境の変化」

鳥類の生息数変化から気が付く事など

調査報告

水の駅「ビュー福島潟」 成海 信之 氏

「オオヒシクイ20年の変化」

これまでの調査と昨年の最大飛来数を振り返って

第二部

討論会

過去最大規模のオオヒシクイの飛来に伴い起こったことは？
福島潟を越冬地としてどう再評価するの？潟の未来は？…など

オオヒシクイ (天然記念物)

冬の渡り鳥・オオヒシクイは、9月下旬から福島潟に飛来しはじめ、多い時で5000羽以上に達します。そして翌年3月までには、故郷のカムチャツカへと2400キロメートルの旅路を帰っていきます。彼らにとって福島潟は一年でもっとも厳しい冬を過ごすための大事な越冬地なのです。

演者略歴

パネリスト・講師 ● 齋藤 敏郎(さいとう としろう)



新発田市で呉服業を自営。少年団の野外活動等を通して啓発活動を行っている。1989年の全国一斉ガンカモ調査以来、福島潟の鳥類調査を実施。2003年より国指定福島潟鳥獣保護区管理員(非常勤)。

パネリスト・発表者 ● 成海 信之(なるみの ぶゆき)



1964年西蒲原郡黒埼町(現新潟市西区)出身、帯広畜産大学卒、2009年より水の駅「ビュー福島潟」レンジャーとして同館のオオヒシクイ調査にも携わる。同年より福島潟鳥獣保護区管理員を兼務(非常勤)。

パネリスト・進行役 ● 齊藤 儀男(さいとう よしお)



1997年ねっとわーく福島潟設立時に会員として入会。以後、自然学習園の池の整備を中心に活動する。現在、ねっとわーく福島潟事務局局長、ビュー福島潟副館長。

福島潟シンポジウム × ねっとわーく福島潟 交流集会

オオヒシクイと福島潟

日時

2023年2月19日(日) 13:30~15:30

会場

水の駅「ビュー福島潟」6階ホール
(新潟市北区前新田乙493番地)

定員

60人(先着順、要申し込み) **参加無料**

申込

電話で水の駅「ビュー福島潟」へお申し込みください。
申込開始:1月18日(水) 受付時間:9:00~17:00(月曜休館)
水の駅「ビュー福島潟」 ☎ 025-387-1491

毎週更新

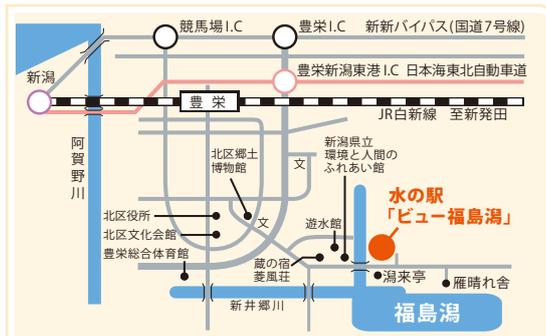
福島潟自然情報

#福島潟オオヒシクイ情報

検索

福島潟

最新情報はビュー福島潟の公式ホームページやツイッターでも



アクセス

新新バイパス豊栄ICから車で約10分

JR豊栄駅から車で約5分 JR豊栄駅から徒歩約30分

主催 水の駅「ビュー福島潟」、NPO 法人ねっとわーく福島潟

今回の福島潟シンポジウムはねっとわーく福島潟の交流集会との合同開催です